

令和 6 年度

事業報告書

2025 年（令和 7 年）6 月



公益財団法人

横浜市スポーツ協会

YOKOHAMA SPORT ASSOCIATION

【目 次】

I 事業の状況 - 1 -

1 競技スポーツ推進事業【定款第4条第1項第1号】	- 1 -
2 地域スポーツ推進事業【定款第4条第1項第1号、第5号】	- 3 -
3 健康・体力づくりの推進事業【定款第4条第1項第1号、第3号、第4号、第5号】	- 4 -
4 スポーツ人材の養成・育成・活用事業【定款第4条第1項第1号、第4号】	- 7 -
5 スポーツ情報の収集・提供と調査研究【定款第4条第1項第2号】	- 8 -
6 インクルーシブスポーツ推進事業【定款第4条第1項第1号、第5号】	- 8 -
7 スポーツ団体育成・支援等事業【定款第4条第1項第1号、第5条第1項第2号】	- 9 -
8 スポーツ施設の運営事業【定款第4条第1項第5号、第5条】	- 10 -
9 その他事業	- 19 -

II 処務の概要 - 20 -

1 評議員に関する事項【定款第 11 条】	- 20 -
2 役員に関する事項【定款第 22 条】	- 21 -
3 職員に関する事項【定款第 42 条】	- 23 -
4 委員会に関する事項等【定款第 43 条】	- 23 -
5 加盟団体に関する事項【定款第 44 条】	- 23 -

□ 資料 - 24 -

1 中期計画達成状況	- 24 -
2 賛助会員	- 25 -

I 事業の状況

1 競技スポーツ推進事業【定款第4条第1項第1号】

幅広い市民を対象とした各種競技会・大会等のスポーツを実践できる場と機会を提供することで、競技スポーツを推進しました。

(1) スポーツ助成事業

ア 第20回都市間交流スポーツ京都大会

6月29日（土）、7月13日（土）・14日（日）、京都市にて11種目の大会を実施しました。都市間交流スポーツ大会は、今回の京都大会を最後に20年の歴史に幕を閉じることになりました。

イ 市民スポーツ大会・市民マスターズスポーツ大会

競技団体が主管し大会運営を行う、市民スポーツ大会及び市民マスターズスポーツ大会を実施しました。

	市民スポーツ大会	市民マスターズスポーツ大会
実施競技数	35 競技(うち2競技中止)	26 競技(うち2競技中止)
参加人数	36,413 人(前年度 32,060 人)	9,950 人(前年度 8,713 人)

種目	テニス	軟式野球	ソフトボール	ラグビー	弓道	バレーボール	馬術
市民大会	3,275 人	284 人	5,800 人	422 人	615 人	1,250 人	85 人
マスターズ	53 人	1,282 人	950 人	200 人	119 人	—	—

種目	陸上	バスケットボール	ボクシング	アーチェリー	ソフトテニス	ウェイトリフティング	相撲
市民大会	2,152 人	4,408 人	44 人	283 人	5,178 人	50 人	36 人
マスターズ	226 人	300 人	—	—	132 人	—	8 人

種目	体操	少林寺拳法	空手道	卓球	ハンドボール	日本拳法	剣道
市民大会	198 人	173 人	2,210 人	583 人	1,185 人	27 人	194 人
マスターズ	—	8 人	200 人	209 人	676 人	—	136 人

種目	綱引	水泳	バドミントン	インディアカ	サッカー	カヌー	ダンススポーツ
市民大会	580 人	1,496 人	2,956 人	171 人	1,450 人	中止	270 人
マスターズ	—	954 人	—	72 人	3,250 人	中止	70 人

種目	ボウリング	スキー	なぎなた	パワーリフティング	ボート	スポーツチャンバラ	ゲートボール
市民大会	105 人	192 人	76 人	中止	454 人	87 人	—
マスターズ	46 人	40 人	—	中止	385 人	16 人	317 人

種目	グラウンドゴルフ	レスリング
市民大会	—	124 人
マスターズ	301 人	—

ウ 各区交流スポーツ大会

加盟地域団体及び競技団体と連携して、市内 18 区間のスポーツ交流大会を実施しました。

種目	卓球	インディアカ	弓道	剣道	テニス	ソフトテニス	軟式野球
参加人数	176 人	63 人	66 人	38 人	雨天中止	180 人	550 人
合計	1,073 人(前年度 2,023 人)						

エ ジュニア競技力向上事業(合同強化練習)

競技団体の開催する、小・中・高校生を対象にした合同強化練習事業を実施しました。

実施団体	14 団体
参加人数	2,118 人(前年度 2,158 人)

(2)スポーツ大会支援事業

大規模スポーツ大会の円滑な開催のため、運営組織への参画等の支援活動を行いました。

ア 世界トライアスロンシリーズ横浜大会支援事業

(大会主催:世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会)

エリート大会は、パリ 2024 オリンピック・パラリンピックの選考大会にも位置づけられ 37 の国と地域から、エリートパラ 80 名、エリート 120 名の選手が参加し熱戦を繰り広げました。エイジグループ大会では、10 代から 80 代までの幅広い年齢層の 1,427 名が参加し、多くの友人・家族が目の前で応援する姿や、笑顔で完走を称え合う様子が溢れていました。

部門	【エリート】 【エリートパトトライアスロン】 世界のトップアスリートによる 世界最高峰の国際大会	【エイジグループ】 都市型トライアスロンとして 日本最大規模の一般大会
開催日	5 月 11 日(土)	5 月 12 日(日)
コース	山下公園、日本大通り、 赤レンガ倉庫、大さん橋	山下公園、山下ふ頭、 象の鼻パーク
出走者数	200 人 (2023 年:190 人)	1,427 人 (2023 年:1,440 人)
参加国数	37 の国及び地域	40 の国及び地域
観戦者数	2 日間合計約 49 万人	



イ 横浜八景島トライアスロンフェスティバル支援事業

(大会主催:横浜シーサイドトライアスロン大会実行委員会)

「こどもから大人まで、ファミリーで楽しめるトライアスロン大会、横浜八景島を満喫しよう」を合言葉に、誰もが参加でき楽しめる大会として、今回で 12 回目の実施をしました。SNS 等を活用した広報により、前年実績を大きく上回る 756 人の参加者となりました。



種 目	スプリント、パラトライアスロン、リレー、ファミリーリレー、アクアスロン、パラアクアスロン、キッズペアチャレンジ、デュアスロン、キッズデュアスロン
開催日	9 月 29 日(日)
出走者数	756 人
完走者数	713 人(完走率 94.3%)

ウ 横浜マラソン 2024 支援事業

(大会主催:横浜マラソン組織委員会)

横浜マラソン 2024 は、幅広い年齢層の方にご参加いただき、国内外から約 2 万 6 千人のランナーが秋晴れのもと横浜の街を駆け抜けました。

種 目	フルマラソン、ペアリレー、みなとみらい 7km ラン、車いすチャレンジ、ファンラン ファミリー、ファンラン 中学生
開催日	10 月 27 日(日)
参加人数	25,542 人
完走者数	23,942 人(完走率 93.7%)
沿道応援者数	約 48.3 万人



横浜マラソン 2024

(3)スポーツ大会派遣事業

第 36 回全国健康福祉祭とっとり大会（ねんりんピックはばたけ鳥取 2024）参加選手選考に必要な支援・助成を行うと共に、横浜市代表選手を大会に派遣しました。

2 地域スポーツ推進事業【定款第 4 条第 1 項第 1 号、第 5 号】

身近な場所で気軽にスポーツやレクリエーション活動に参加できる環境を整えることで、地域のスポーツ活動を推進しました。

(1)地域スポーツ支援事業

ア 地域へのスポーツ支援

区民に密着した活動を行っている加盟地域団体や、スポーツ推進委員、地域で活動しているスポーツ関連団体等と連携・協力し、身近な場所で気軽にスポーツに親しむことができるよう、地域のスポーツ振興を支援しました。

イ さわやかスポーツ事業

いつでもどこでも気軽にできるニュースポーツ「ヨコハマさわやかスポーツ」の普及を、地区活動等を通じて行いました。

事業名	開催回数	延べ参加人数
地区活動	3,364 回	59,159 人
各区大会	34 回	2,335 人
各区フェスティバル	45 回	13,182 人
講習会	24 回	428 人
その他	1,269 回	88,472 人
普及委員会	122 回	1,194 人
合計 (前年度)	4,858 回 (5,326 回)	164,770 人 (170,145 人)



さわやかスポーツ体験会

(2) スポーツイベント開催事業

ア 第 35 回よこはまシティウォーク

令和 7 年 3 月 20 日（木・祝）、横浜シンフォステージ（みなとみらい中央地区）を発着会場として、第 35 回よこはまシティウォークを開催しました。

また、同会場にて「ウェルネスフェス」を開催し、多くの来場者でにぎわいました。

◆参加人数・・・3,554 人（ウェルネスフェス含む）



よこはまシティウォーク

3 健康・体力づくりの推進事業【定款第 4 条第 1 項第 1 号、第 3 号、第 4 号、第 5 号】

心身両面の健康保持のため、ライフステージに応じたスポーツ活動や健康づくりのための取り組みを進めました。

(1) 子どもの体力向上事業

ア 子どもの体力向上支援事業

小・中学校、地域人材等と協働し、体力向上や運動の習慣化につながる取り組みを行いました。

総合学習の時間や学校保健委員会では、外遊びを通じた運動の紹介、パラスポーツ体験、けが予防や姿勢の改善などをテーマに、ストレッチや講座なども行いました。

	小中学校への訪問事業
実施回数	延べ 40 校、44 回
参加人数	延べ 9,404 人



学校保健委員会

イ はつらつキンダー事業

保育園において、運動・遊びを通じて体を動かす楽しさを伝える中で、幼児期に必要な多様な動きの習得や、生涯にわたってスポーツに親しむための基盤づくりにつながる事業を実施しました。

また、親子を対象としたイベントを横浜 BUNTAI を会場に 10 月 14 日（月祝）と、1 月 25 日（土）に開催しました。



よしお兄さんと遊ぼう

事業名	保育園訪問運動指導
実施回数	延べ 21 園、272 回
参加人数	延べ 7,550 人

事業名	はつらつキンダーフェスタ 2024	よしお兄さんと遊ぼう
参加人数	834 人(子ども 413 人・大人 421 人)	321 人(子ども 168 人・大人 153 人)

ウ スポーツ少年団事業

市内のスポーツ少年団の普及と活動の活性化を進めながら、スポーツを通じた青少年の心身の健全な育成と、生涯スポーツの普及振興を図りました。

登録数	9競技、26 団体		
指導者数	125 人	団員数	510 人

エ こどもマリンスクール事業

帆船日本丸を活用し、小学4～6年生を対象に、集団生活を通して、船員活動体験や海に関する学習、レクリエーション活動を行いました。今年度は、南伊豆少年自然の家や野島青少年研修センターでの宿泊プログラムも実施しました。

実施日	6月22日(土)～11月23日(土)
会場	帆船日本丸・南伊豆臨海学園 ほか
参加人数	72 人



こどもマリンスクール

(2)健康づくり支援事業

ア 講座・セミナー

地域指導者の養成やスキルの維持向上のための各種講座を開催しました。

基礎的なスポーツ指導や運営のための資格取得講座（コーチングリーダー養成講座）や姿勢改善ワークショップを新たに開催しました。

また、介護予防に関わる講座や、障害者スポーツ文化センター横浜ラポールと連携した講座等を開催し、地域で活躍できる人材を育成しました。

講座名	実施回数	参加人数
コーチングリーダー養成講座	2 回	36 人
介護予防運動指導員 養成講座	1 回(eラーニング 4 週間・集合 2 日)	4 人
介護予防・認知機能向上セミナー	1 回	22 人
身体整えセミナー	1 回	20 人
姿勢改善プログラムワークショップ講座	2 回	24 人
肩こり・膝・腰 お悩み改善プログラム	2 回	20 人
元気力向上セミナー	2 回(前期・後期 各 2 日間)	27 人
スポーツリズムトレーニング ディフューザー養成講座	1 回	15 人
リズムステップ ディフューザー講習会	1 回	13 人
合計		181 人

イ 健康体力づくり派遣指導事業

地域へ出向き、生活習慣の改善や介護予防の推進に必要な運動習慣のきっかけづくりなどにつながる姿勢測定プログラム等を提供し、市民の健康づくりを推進しました。

また、区役所、区スポーツ協会と連携したイベントや、ショッピングモールを利用したスポーツ体験会を実施しました。
◆参加人数・・・19,693 人



南区スポーツイベントの姿勢測定

ウ ウェルネスプログラムサービス事業

オリジナルプログラム「YSA ジョイウェルコンセプト」を活用して、「関節ととのえ塾」、「パーソナルコンディショニング事業」及び特別講座（ランナー対象、ラケット競技者対象等）を実施しました。

サービス名	参加人数
関節ととのえ塾(集団教室)	1,932 人
パーソナルコンディショニング	200 人
特別講座(ランナー対象、ラケット競技者対象等)	57 人



ランナー向け講座

エ 健康経営支援事業

働く世代の健康づくりや職場におけるスポーツ実施の取り組みを支援するため、企業や団体に向けた健康・運動プログラムの提案（開発）や健康づくりの専門家派遣、オリジナルの種目を取り入れた企業向けの運動会をトータルサポートしました。また、企業の健康経営実態調査を行い報告書を取りまとめました。



企業運動会

(3)企画事業

ア コンサル事業

施設管理の実績から、たきがしら会館の施設運営に関するコンサルティング業務をはじめ、大規模スポーツイベントの運営ノウハウを活かし、「日本カーリング選手権横浜 2025」の大会運営業務を受託をしました。また、大会支援として、主催団体・チームと企業とのマッチングに取り組みました。

イ PFI 関連事業

横浜 BUNTAI が 2024 年 4 月に開業し、イベントセールス業務や体育備品・駐車場機器の保守・修繕業務を担い、興行を中心とした施設運営を進めてきました。横浜 BUNTAI のサブアリーナである横浜武道館では、市民の利用から興行まで幅広いニーズに合わせた施設運営を引き続き進めます。

ウ 旧市庁舎街区活用事業

2026 年春の開業を目指し、クリニックとフィットネスジムが併設された施設の設計が完了し、1 月の竣工に向けて工事が進んでいます。

また、当該施設で提供するサービス等の検討を進めています。

エ 広報マーケティング事業

新規ビジネス獲得を目的とした当協会のプロモーション施策として計画している公式ウェブサイトのリニューアルに向けて、施設管理やスポーツイベントに関するノウハウ、企業向け健康経営プログラムなど、当協会が持つリソースを整理、可視化したプロモーションシートを作成しました。

4 スポーツ人材の養成・育成・活用事業【定款第4条第1項第1号、第4号】

スポーツ指導者・ボランティアの養成を通じ、市民が運動・スポーツに対する正しい知識や技術を身に付けられる環境づくりを行いました。

(1)指導者養成事業

ア スポーツ人材養成・活用事業

身近な地域でスポーツ振興のために活動できる人材を養成するため、「横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座」を開催しました。

また、講座修了者を含め、地域での活動者を支えるため、横浜市スポーツ人材活用システム登録者制度を運用し、活動機会の情報提供や研修、情報交換会を開催しました。また、指導現場でおこる事故等に対する補償制度の案内を行いました。

講習会名	開催日	参加人数
横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座	6月～12月 全10回	243人
安全管理(AED実技)研修	6月24日・25日(2回)	19人
子どもの運動指導スキルアップ研修	12月23日	20人
介護予防事業測定員研修	通年(6回)	8人
指導現場見学・体験	通年(13回)	19人
指導案作成ポイント研修・補償制度説明会	3月9日・10日(2回)	30人
合計		339人

横浜市スポーツ人材活用システム活動実績	活動登録者数	133人
	活用件数(延べ)	14,904件
	指導対象者数(延べ)	271,130人

イ 指導者技術向上事業

競技スポーツの指導技術、競技技術、審判技術などの向上を目的に、加盟競技団体・加盟地域団体が開催する研修会等に、経費の一部を助成しました。

実施団体	参加人数	実施団体	参加人数
横浜市インディアカ協会	23人	横浜市スキー協会	19人
横浜市空手道連盟	10人	横浜市スポーツチャンバラ協会	中止
横浜市山岳協会	29人	横浜市ゲートボール協会	53人
横浜市卓球協会	132人	横浜市ボート協会	中止
横浜市剣道連盟	228人	横浜市綱引協会	18人
横浜市日本拳法連盟	13人	泉区スポーツ協会	75人
横浜市ダンススポーツ連盟	92人	神奈川区スポーツ協会	中止
		合計	692人

(2)スポーツボランティアセンター運営事業

横浜市スポーツボランティアセンターを運営し、市民のボランティア参加を推進しました。

また、令和7年2月22日(土)に「おもてなし&マナー研修」、3月8日(土)に「パラスポーツ研修会」の2回の会員向け講座を開催しました。

- ◆のべ活動人数・・・3,955人
- ◆募集件数・・・・・・63件
- ◆研修参加人数・・・205人（1回目118人 2回目87名）
- ◆会員登録者数・・・15,288人（令和7年3月末時点）



横浜マラソン 2024 での活動

5 スポーツ情報の収集・提供と調査研究【定款第4条第1項第2号】

スポーツ情報の発信やスポーツに関する調査を通じて、スポーツを「知る」機会を提供しました。

(1) スポーツ情報サイト運営事業

横浜市内の最新のスポーツ・レクリエーション情報を幅広く収集し、市民が「する」「みる」「ささえる」といったスポーツ活動に参加しやすくなるよう、スポーツ情報サイト「ハマスポ」や SNS 等を活用してスポーツ情報を提供しました。

主なコンテンツ	・市内スポーツイベント等のお知らせ・レポート記事(79件) ・著名人コラム(18件) (執筆者: あんどうたかお氏、苅部俊二氏、障害者スポーツ文化センター横浜ラポール) ・ウォーキングコース情報(458件)、各団体からの情報をまとめて提供				
保有情報件数	施設情報 1,475件	サークル情報 85件	指導者情報 72件	イベント・教室情報 763件	合計 2,395件
アクセス数	1,194,542件				

6 インクルーシブスポーツ推進事業【定款第4条第1項第1号、第5号】

障害の有無や年齢、性別、国籍等に関わらず、すべての人がスポーツに親しむことができる環境を整備しました。

(1) インクルーシブスポーツ推進事業

市内18箇所において、地域団体等と連携し、商店街や駅前広場、公園など身近な場所でインクルーシブスポーツ体験会を実施しました。

- ◆参加人数・・・2,467人

(2) インクルーシブスポーツフェスタ 2024

令和6年10月19日（土）三ツ沢公園陸上競技場において、障害の有無や年齢、性別、国籍を問わず、誰でも気軽に参加できるインクルーシブスポーツイベントを開催しました。

- ◆参加人数・・・630人



インクルーシブスポーツフェスタ
2024

(3) パラスポーツ推進事業

加盟競技団体と協働し、パラスポーツ競技大会や体験会を開催しました。

◆実施種目・・・水泳、陸上競技、ボウリング、テニス
トライアスロン、少林寺拳法

◆参加人数・・・275 人



(4) ゆるスポーツ事業(スポーツ共創事業)

小学校においてスポーツ共創事業として、学校やクラスの「オリジナルゆるスポーツ」を創りました。創ったスポーツは、学校内のほか、「三ツ沢公園感謝デー」でも披露し、地域の方と一緒にスポーツに親しむ機会を提供しました。

令和7年3月16日(土)には、三井アウトレット横浜ベイサイドにて、創ったスポーツを中心にゆるスポーツ運動会も開催しました。



(5) チャリティーバスケットボールフェスティバル 2024

令和6年8月3日(土)横浜武道館にて、横浜市リハビリテーション事業団との共同主催で、車いすバスケットボールエキシビジョンマッチやプロバスケットボール選手と子ども達と一緒に楽しむスポーツゲーム、パラスポーツ体験などを実施しました。また、収益の一部を横浜こどもスポーツ基金の資金としました。

◆参加人数・・・606 人



7 スポーツ団体育成・支援等事業【定款第4条第1項第1号、第5条第1項第2号】

スポーツに関わる団体等を支援し、横浜のスポーツの振興を図りました。

(1) 顕彰事業

ア 横浜スポーツ表彰事業

体育・スポーツの普及振興に顕著な功績のあったもの、また、著名な大会で優秀な成績を収めた個人203人、団体20チームを表彰しました。

また、第33回オリンピック競技大会(2024/パリ)、パリ2024パラリンピック競技大会において顕著な功績を残した横浜市ゆかりの選手に、横浜市長及び公益財団法人横浜市スポーツ協会会長の連名で、横浜市スポーツ栄誉賞を贈呈しました。

賞名称	受賞人数・チーム
横浜市スポーツ栄誉賞	6名
スポーツ功労賞	41名
優秀指導者賞	7名
優秀選手賞	90名・18チーム
スポーツ奨励賞	59名・2チーム
計	203名・20チーム

イ スポーツ普及功労賞事業

加盟地域団体構成員で、地域においてスポーツの普及振興やスポーツクラブ育成のために寄与された個人 29 人に対し、横浜スポーツ普及功労賞を授与しました。

ウ 新春横浜スポーツ人の集い

令和 7 年 1 月 24 日（金）横浜武道館にて、「第 59 回新春横浜スポーツ人の集い」を実施しました。第 1 部では横浜スポーツ表彰式典、第 2 部では祝宴（賀詞交歓会）を開催し、表彰者を称えるとともに多くのスポーツ関係者の相互交流を図り親睦を深めました。

◆参加人数・・・901 人

(2) 団体支援事業

ア 加盟団体助成事業

加盟団体の組織運営や各団体が自主的に実施するスポーツの普及・振興事業に係る経費に対して、助成金を交付しました。

(3) 来浜事業

横浜市少年自然の家が設置されている群馬県昭和村及び静岡県南伊豆町の児童 93 人を横浜に招待し、横浜への理解と親しみを深めてもらう事業を実施しました。

町村名	日程	児童数
群馬県昭和村	9月3日(火)～4日(水)	53 人
静岡県南伊豆町	10月10日(木)～11日(金)	40 人

8 スポーツ施設の運営事業【定款第 4 条第 1 項第 5 号、第 5 条】

35 施設の安全・安心な管理・運営を通して、スポーツ・レクリエーション活動に親しむことのできる「場・機会」を提供しました。

◆主な施設の利用状況（3年間比較）

施設	令和6年度	令和5年度	令和4年度	R6/R5
横浜市スポーツセンター	2,352,147 人 (12 施設)	2,414,386 人 (12 施設)	1,866,157 人 (12 施設)	97.4%
横浜市平沼記念体育館	144,335 人	127,602 人	100,795 人	113.1%
横浜市青少年野外活動センター	56,631 人	53,528 人	41,918 人	105.8%
横浜市少年自然の家	19,505 人	17,989 人	12,998 人	108.4%
横浜国際プール	603,873 人	615,025 人	540,327 人	98.1%
新横浜公園	1,757,625 人	1,557,847 人	1,540,899 人	112.8%
三ツ沢公園	613,749 人	616,781 人	482,911 人	99.5%
横浜市スポーツ医科学センター	186,591 人	174,628 人	191,170 人	106.9%
テニスガーデン	159,298 人	155,788 人	167,563 人	102.3%
横浜銀行アイスアリーナ	231,101 人	204,396 人	231,723 人	113.0%
横浜武道館	723,158 人	530,497 人	491,966 人	136.3%
横浜 BUNTAI	376,399 人	-	-	-

(1)指定管理施設

ア 横浜市スポーツセンター

スポーツセンター12館（神奈川・西・南・保土ケ谷・港北・青葉を除く）では、安全・安心な利用に留意して、トレーニング室や卓球・バドミントン等の個人利用を実施し、各種スポーツの団体利用、区民大会・市民大会等が開催されました。

また、幼児から高齢の方までを対象とした各種スポーツ教室を実施したほか、インクルーシブスポーツやパラスポーツの要素を取り入れた各種イベントを開催し、スポーツ・レクリエーション活動を推進しました。

なお、横浜市による天井改修等工事により、金沢スポーツセンターは令和6年5月20日から令和7年6月9日まで、都筑スポーツセンターは令和6年6月1日から令和7年4月13日まで、瀬谷スポーツセンターは令和6年6月1日から令和7年4月14日まで、それぞれ長期休館となりました。



戸塚スポーツセンター
スケボー体験会

◆利用実績

施設名	利用人数	(うち、個人利用人数)	施設名	利用人数	(うち、個人利用人数)
鶴見	236,704 人	(72,030 人)	緑	195,541 人	(48,540 人)
中	210,153 人	(44,921 人)	都筑	23,893 人	(6,825 人)
港南	262,827 人	(40,485 人)	戸塚	310,442 人	(86,124 人)
旭	222,417 人	(39,130 人)	栄	299,129 人	(74,804 人)
磯子	242,279 人	(63,841 人)	泉	238,666 人	(66,319 人)
金沢	20,738 人	(6,695 人)	瀬谷	89,358 人	(29,155 人)
スポーツセンター利用人数合計		2,352,147 人	〔うち、個人利用人数は、578,869 人〕		

イ 横浜市栄公会堂

栄スポーツセンターと一体管理となっている栄公会堂では、各種文化イベントが開催されました。また、講堂や諸室を利用した自主事業では、コンサートや伝統芸能などの文化行事を開催し、多くの皆様にご来館いただきました。

◆利用実績

団体数	2,492 団体	利用人数	124,286 人
-----	----------	------	-----------

ウ 横浜国際プール

当協会とコナミスポーツ(株)・(株)トーリツとの3者で指定管理者グループを形成し、プールやトレーニングルーム、テニスコートなどの管理運営を行ったほか、各種スポーツ・文化教室を開催しました。メインプールでは、「東京2020オリンピック・パラリンピック」のレガシーイベントとして、「第3回インクルーシブ水泳競技大会」を7月13日・14日に開催しました。今年は特にパリパラリンピックの代表選手22名が参加し、壮行会も実施しました。8月21日から25日まで「第47回JOCジュニアオリンピックカップ(AS競技)」が開催されました。



障害有無にかかわらず参加できる
インクルーシブ水泳大会を主催

また、メインプールをスポーツフロア化した冬季には、専門学校の運動会や職員の福利厚生を図るための社内運動会等を実施しました。

さらに、横浜ビー・コルセアーズのホームアリーナとして活用され、Bリーグの公式戦 20 試合が行われました

◆利用実績

種別	利用人数
個人利用	257,238 人
団体利用	34,073 人
優先利用人数(大会等)	196,937 人
教室参加人数	115,625 人
合計	603,873 人



各種企業及び専門学校等の運動会の実施

◆主な行事

大会・行事名	開催月	入場者数
2024 ジャパンパラ水泳競技大会	5 月 1 日～5 日	1,900 人
第 3 回 インクルーシブ水泳競技大会	7 月 13 日～14 日	986 人
第 47 回 JOC ジュニアオリンピックカップ(AS 競技)	8 月 22 日～25 日	3,825 人
横浜ビー・コルセアーズホームゲーム 20 試合	10 月～3 月	93,910 人
大原学園スポーツフェスティバル	10 月 17 日	1,815 人
テニス日本リーグ 1st ステージ、2st ステージ	12 月 5 日～8 日 1 月 22 日～26 日	3,000 人 3,610 人

エ 横浜武道館

株式会社 YOKOHAMA 文体の構成員として、横浜武道館の管理運営を行いました。武道館 2 階のアリーナの稼働率は 95.7%、1 階の武道場 70.4%、多目的室 79.7% となり、多種多様なスポーツ団体、興行団体にご利用いただきました。

貸館事業の他、市民の皆様の心身における健康維持増進、子どもの体力向上等を目的としたスポーツ及び文化系教室事業、約 40 プログラムを提供しました。教室参加人数は年間延べ約 2 万人となりました。

また、10 月にはスポーツ庁主催（農林水産省共催）の「BUDO ツーリズムフェア 2024in 京都」に出展し、仁和寺内にて、主に外国人旅行者約 150 名に、普段横浜武道館で開催している「空手板割り体験プログラム」を体験していただきました。

◆利用実績

利用団体数	利用人数
6,069 団体	723,158 人



スズキワールドカップ 2024
第 35 回エアロビック世界大会



第 26 回車いすラグビー
日本選手権大会



BUDOツーリズムフェア 2024in 京都

◆主なイベント

イベント名	開催月日	入場者数
第 39 回皇后杯全日本柔道選手権大会	4月 21 日	約 1,100 人
スズキワールドカップ 2024 第 35 回エアロビック世界大会	5月 25 日・26 日	約 1,000 人
スターダム5★STAR GP 横浜武道館大会	8月 10 日	約 1,600 人
CHILL CLASSIC CONCERT	10 月 5 日・6 日	約 6,100 人
ABE CUP2024(柔道)	11 月 10 日	約 1,000 人
第 26 回車いすラグビー日本選手権大会	12 月 20 日～22 日	約 3,000 人
第1回 W リーグユナイテッドカップファイナル 富士通レッドウェーブホームゲーム(vs シャンソン V マジック)	2月 7 日～9 日	約 5,300 人
PANCRASE352(総合格闘技)	3月 9 日	約 1,800 人
B リーグ横浜エクセレンスホームゲーム	4月～3月	約 41,500 人

オ 横浜 BUNTAI

旧横浜文化体育館でトリを飾った、横浜出身のアーティスト「ゆず」によるこけら落としコンサートが4月6日（土）・7日（日）に行われ、横浜 BUNTAI の歴史がスタートしました。

その後も「横浜ビー・コルセアーズ」ホームゲーム、女子プロレス「スターダム」等で開館を彩りました。

「YOKOHAMA B.Block Fes」や「YOKOHAMA UNITE 音楽祭」といった地域と連携した自主事業も開催し、PFI 事業での民間企業のノウハウを活用した事業も展開しました。

首都圏アリーナ初開催となった「日本カーリング選手権大会 横浜 2025」は、数多くのメディアにも取り上げられ、全日程においてチケット・オフィシャルグッズが完売する等大きな注目を浴び、横浜 BUNTAI の知名度向上にも大きく繋がりました。

その他、音楽コンサートの興行だけでなく、各競技団体の国際・全国規模の大会も複数開催されたほか、中体連市大会などの市民利用も行われました。

◆利用実績

利用団体数	利用人数
91 団体	376,399 人

◆主なイベント

イベント名	開催月日	入場者数
YUZU LIVE 2024 AGAIN AGAIN in 横浜 BUNTAI	4月 6 日・7 日	10,407 人
B1 リーグ横浜ビー・コルセアーズホームゲーム(vs 三遠ネオフェニックス)	4月 13 日・14 日	9,730 人
スターダム ALL STAR GRAND QUEENDOM 2024	4月 27 日	2,735 人
B3リーグ 横浜エクセレンスホームゲーム(vs 岐阜スーパース)	10 月 5 日・6 日	7,835 人
第 3 回武術太極拳ワールドカップ大会	10 月 26 日・27 日	6,000 人
日本カーリング選手権大会 横浜 2025	2月 2 日～9 日	13,100 人
第 4 回全日本少年少女空手道選抜大会	2月 14 日～16 日	7,371 人
バドミントン S/J リーグ 2024 TOP4 Tournament	2月 21 日・22 日	3,910 人
Cheerleading Japan Open Championship2025	2月 23 日・24 日	4,000 人

カ 横浜市平沼記念体育館

三ツ沢公園の一角にある平沼記念体育館の管理運営を行いました。

フットサルやハンドボールなどの各種団体・チームに数多く利用されたほか、一般社団法人カルティベータが主催するインクルーシブスポーツイベント「アジアスポーツフェスタ」などの各種競技大会が開催されました。

また、平沼亮三氏に関する品々を展示した資料室や展望室を開放し、同氏の偉業の周知に努めました。

◆利用実績

種別	利用人数
個人利用	1,756 人
団体利用(3,883 団体)	137,355 人
スポーツ教室(全 11 教室)	5,224 人
合計	144,335 人

キ 横浜市青少年野外活動センター

三ツ沢公園（神奈川区）、くろがね（青葉区）、こども自然公園（旭区）の各青少年野外活動センターの管理運営を行いました。

青少年への集団宿泊体験の場の提供や、自然環境を生かしたプログラムの指導及び野外活動教室事業を実施しました。

◆利用実績

施設名	団体数	延べ利用人数
三ツ沢公園	555 団体	15,683 人
くろがね	653 団体	13,276 人
こども自然公園	881 団体	27,672 人
合計	2,089 団体	56,631 人

◆野外活動教室の実施

施設名	教室数	延べ参加人数
三ツ沢公園	22 教室	2,931 人
くろがね	22 教室	3,188 人
こども自然公園	15 教室	5,334 人
合計	59 教室	11,453 人



三ツ沢公園青少年野外活動センター
開催事業「家族でデイキャンプ」

ク 横浜市少年自然の家

赤城林間学園（群馬県）及び南伊豆臨海学園（静岡県）の管理運営を行いました。

シーカヤック、ハイキング、自然観察、創作活動などの自然体験等の学習の場を提供しました。

◆利用実績

施設名	団体数	延べ利用人数
赤城	147 団体	12,658 人
南伊豆	98 団体	6,847 人
合計	245 団体	19,505 人

◆野外活動教室の実施

施設名	教室数	延べ参加人数
赤城	16 教室	924 人
南伊豆	9 教室	711 人
合計	25 教室	1,635 人



赤城林間学園主催事業
「尾瀬トレッキングツアー」

ケ 新横浜公園／日産スタジアム等

横浜市スポーツ協会、F・マリノススポーツクラブ、管理 J V（ハリマビシステム他 4 社）が共同事業体を構成し、日産スタジアムを含む新横浜公園（67.8ha）の管理運営を行いました。

日産スタジアムでは、AFC チャンピオンズリーグにも出場した横浜 F・マリノスホームゲーム全 25 試合、ジャパンラグビーリーグワン（横浜キヤノンイーグルス戦）1 試合、ラグビー日本代表 vs ニュージーランド代表のほか、7 万人規模でのコンサート（3 公演 6 日間）が行われました。

水と緑が豊かな新横浜公園では、四季折々の生きもの観察会等を実施するとともに、園内の各施設（運動広場など）は市民大会や区民大会等でにぎわいました。

◆利用実績

施設名	利用人数
日産スタジアム(国内最大 7 万 2 千人収容)	1,155,375 人
日産フィールド小机	33,299 人
日産ウォーターパーク	87,652 人
新横浜公園内有料施設(北側園地)	126,772 人
新横浜公園内無料施設(イベント利用のみ)	208,598 人
しんよこフットボールパーク	83,558 人
ドッグラン	62,371 人
合計	1,757,625 人



Jリーグ 横浜 F・マリノス戦

①日産スタジアム（日本陸連第 1 種公認陸上競技場）

◆主なイベント

イベント名	開催月	入場者数
Jリーグ(ルヴァンカップ準決勝含む 18 試合)	4-3月	478,076 人
AFC チャンピオンズリーグ(7 試合)	4-3月	124,084 人
リポビタン D チャレンジカップ 2024 日本代表 vs ニュージーランド代表	10 月	60,057 人
ジャパンラグビー リーグワン(1 試合)	12 月	22,871 人

②日産フィールド小机（日本陸連第 3 種公認陸上競技場）

◆主なイベント

イベント名	開催月	入場者数
高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアリーグ(5 試合)	4-12 月	800 人
JA 全農チビリンピック 2024	5月	3,000 人
神奈川県高等学校駅伝競走大会	10 月	1,200 人
港北駅伝大会	1月	1,450 人

③日産ウォーターパーク（温水利用型の 22 種類のプール）

④北側園地有料施設（野球場、運動広場第 1・第 2、投てき練習場、テニスコート、ドッグラン、球技場）

⑤新横浜公園内無料施設（スケボー広場、インラインスケート広場 1・2、バスケットボール広場、壁打ちテニスコート、公園内園路、広場等）

コ ミツ沢公園

横浜市緑の協会・横浜市スポーツ協会が共同事業体を構成して運営する、ミツ沢公園のうち、ニッパツミツ沢球技場、陸上競技場、補助陸上競技場及び馬術練習場の管理運営を行いました。

球技場では、Jリーグ、なでしこリーグなどの利用がシーズンを通して行われ、ラグビーリーグワンなどの利用もありました。コロナ前の利用に戻りつつある中、稼働率の非常に高い施設の運営を着実に行いました。

陸上競技場では、市や県の陸上記録会、各種市民大会や区民大会等を開催し、1月には、消防、市民病院等と連携して航空消防活動の訓練を実施しました。

そのほか、「ブラインドサッカー体験会」、球技場の芝生に入ることができる「芝生にふれよう」、横浜サッカー協会と共催での「ガールズカップ」、馬術練習場での「馬に親しむ会」などの自主事業を行いました。

◆利用実績

施設	利用人数
ニッパツミツ沢球技場	316,869 人
ミツ沢陸上競技場	146,399 人
ミツ沢補助陸上競技場	138,070 人
馬術練習場	12,411 人
合計	613,749 人



ニッパツミツ沢球技場

◆主なイベント（ニッパツミツ沢球技場）

イベント名	開催月	入場者数
J1 横浜 F・マリノス、横浜 FC 8試合（ルヴァンカップ含む）	6-3月	72,123 人
J2 横浜 FC 16 試合	4-11 月	109,993 人
J3 Y.S.C.C. 17 試合（ルヴァンカップ含む）	4-12 月	33,609 人
JFL Y.S.C.C. 3試合	3月	4,180 人
なでしこリーグ1部（日体大 SMG 横浜、ニッパツ横浜 FC シーガルズ）17 試合	4-3月	11,782 人
サッカー天皇杯 4試合	4-9月	10,874 人
第 103 回全国高等学校サッカー選手権大会 1回戦、2回戦	12 月	17,917 人
ジャパンラグビーリーグワン 3試合	1-2月	23,508 人



ジャパンラグビーリーグワン



ブラインドサッカー体験会



馬術練習場 餌やり体験

サ 横浜市スポーツ医科学センター

クリニック（内科・循環器内科・整形外科・スポーツ整形外科・リハビリテーション科）、大・小アリーナ（体育館）、25mプール、トレーニングルーム、研修室などの管理運営を行いました。施設の特性を活かし、体操・水泳などのスポーツ教室や健康教室のほか、減量・脂肪燃焼教室や筋力向上・姿勢改善教室などの目的別教室等を実施しました。また、プロや実業団のスポーツチーム等を対象としたメディカルチェックや各競技に即した専門的な体力測定を実施しました。

小アリーナは令和6年5月～11月、トレーニング室とロビーは令和6年9月～令和7年3月に天井脱落工事を実施しましたが、来館者の導線変更や仮設会場の設置により、運営を継続しました。

①スポーツプログラムサービス（SPS）

医学的検査・運動負荷試験・体力測定の実施結果により、生活・栄養・運動について、医師・管理栄養士・スポーツ科学員などの専門スタッフがアドバイスする「スポーツ版人間ドック」を行いました。

②クリニック（内科・循環器内科・整形外科・スポーツ整形外科・リハビリテーション科）

スポーツ医学に基づく様々な治療をアマチュアからトップアスリートに対して提供しました。

③メディカルエクササイズコース（MEC）

内科的・整形外科的疾患を抱え、積極的に運動することで改善が望める方を対象にした医学的運動療法を実施しました。

④講座・講演

行政や競技団体からの依頼を受け、管理栄養士や理学療法士、運動指導員等が講師となり、健康に関する講演や実技指導を行いました。

⑤産官学連携による事業推進

岩崎学園と令和6年4月1日に連携協定書を締結し、スポーツを通じた人材育成と社会貢献事業を共同実施しました。

◆利用実績

種別		人数
スポーツプログラムサービス		1,023 人
クリニック	内科	3,194 人
	整形外科	24,973 人
	リハビリテーション科	48,269 人
	MEC	10,224 人
施設利用		40,149 人
講座・講演		242 人
自主事業		58,517 人
合計		186,591 人



(2)その他施設

ア 横浜銀行アイスアリーナ

国際規格を満たすスケートリンク施設の管理運営を行い、一般滑走利用や氷上スポーツ団体等への貸出などを通してアイススケートを主とした氷上スポーツの場を提供したほか、諸室や空きスペースを有効活用した各種教室事業やイベント事業を開催しました。当リンクを拠点に活躍するフィギュアスケート選手の育成に力を入れ、多くの選手が各種競技大会で優秀な成績を収めることで、当リンクが注目されました。

また、企業と連携し正面スペースを有効活用する事業を実施しました。



フィギュアスケート選手発表会
「アイスフェスティバル」



「東神奈川ビール祭り」
京浜急行電鉄との協働事業

◆利用実績

一般利用者	59,452 人
団体利用者	8,459 人
教室利用者	104,859 人
貸切利用者	58,331 人
合計	231,101 人

◆主なイベント

イベント名	開催月	参加人数
アイスフェスティバル 2024	5月	722 人
東神奈川ビール祭り	9月	1,200 人
スポレク 2024 親子スケート教室	10月	211 人
横浜銀行 Presents 親子スケート	12月	367 人

イ 横浜市鶴見川漕艇場

ボートやカヌーなどの水上スポーツの場としての利用に供しました。

また、ボートなどの艇や艇庫の貸出しを行いました。

主催事業としては、初心者を対象としたボートやカヌーの教室を7教室開催し、245人の参加がありました。

◆利用実績

艇利用数	3,228 艇
利用人数	20,473 人



鶴見川漕艇場主催事業
「初心者ボート教室」

ウ 屋外プール(横浜プールセンター)

横浜市との調整のうえ、施設の老朽化等の理由により営業を休止としました。

エ テニスガーデン

緑テニスガーデン(10面)、根岸テニスガーデン(9面)、泉中央テニスガーデン(11面)の管理運営を行いました。テニスコートの一般貸出しを行ったほか、子どもから大人まで広く市民が参加できるテニス教室を開催しました。

◆利用実績

施設名	利用人数	貸コート人数	教室参加人数	イベント参加人数
緑テニスガーデン	47,084 人	32,767 人	12,414 人	1,903 人
根岸テニスガーデン	73,134 人	21,085 人	49,480 人	2,569 人
泉中央テニスガーデン	39,080 人	22,381 人	13,538 人	3,161 人
合計	159,298 人	76,233 人	75,432 人	7,633 人

9 その他事業

(1)横浜こどもスポーツ基金 【定款第4条第1項第1号、第5号】

寄付を原資とした「横浜こどもスポーツ基金」を運用し、スポーツを通じて、障害のあるこどもたち等を支援・援助することを目的とした事業への支援活動を行いました。

◆事業助成・・・15,600,000円(11件)

(2)賛助会員事業 【定款第4条第1項第6号、第5条第1項第2号】

当協会が実施する各種事業を推進していくための財源として活用するため、協会の理念やそれに基づくさまざまな活動に賛同していただける、個人・団体からの寄付金を賛助会費として募りました。

(3)新横浜駐車場の運営 【定款第5条第1項第2号】

横浜アリーナに近接する新横浜駐車場の運営を行いました。

種別	延べ利用台数
月極駐車場	12台
時間貸駐車場	74,260台

Ⅱ 処務の概要

1 評議員に関する事項【定款第11条】

(令和7年3月31日現在 評議員 27名)

No	役職	氏 名	所 属 等
1	評議員	石 島 孝 志	横浜市綱引連盟理事長
2	評議員	伊 藤 嘉 章	一般社団法人横浜市アーチェリー協会とみどりの会副会長
3	評議員	倉 又 明 美	横浜市なぎなた連盟理事長
4	評議員	小清水 秀 雄	横浜市山岳協会会長
5	評議員	小 島 永 三	横浜バスケットボール協会会長
6	評議員	田 邊 賢 一	横浜市スポーツチャンバラ協会会長
7	評議員	星 真 太 郎	特定非営利活動法人横浜市ボート協会理事
8	評議員	木 村 英 一	横浜市バドミントン協会理事長
9	評議員	近 藤 昌 弘	特定非営利活動法人横浜市馬術協会副会長
10	評議員	福 田 隆	横浜市ダンススポーツ連盟理事
11	評議員	山 崎 由 明	一般社団法人横浜水泳協会常務理事
12	評議員	山 本 美智子	横浜市レクリエーション連合理事
13	評議員	下 田 秀 美	保土ケ谷区スポーツ協会副会長
14	評議員	矢 島 孝 幸	横浜市立小学校体育研究会会長
15	評議員	小 田 治 男	横浜市医師会横浜スポーツ医会会長
16	評議員	上 條 浩	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団常務理事 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール館長
17	評議員	高 橋 和 子	横浜国立大学名誉教授、静岡産業大学教授
18	評議員	依 田 充 代	日本体育大学教授 オリンピックススポーツ文化研究所長 明治学院大学教養教育センター非常勤講師
19	評議員	沼 澤 秀 雄	立教大学スポーツウエルネス学部教授
20	評議員	筒 井 理	横浜エフエム放送株式会社 編成部 担当部長
21	評議員	壺 阪 敏 秀	株式会社テレビ神奈川取締役 編成局長兼報道局長
22	評議員	真 野 太 樹	株式会社神奈川新聞社統合編集局運動部長
23	評議員	平 元 亨	日本放送協会横浜放送局長
24	評議員	熊 坂 俊 博	横浜市にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興部長
25	評議員	山 本 朝 彦	横浜市教育委員会事務局学校教育企画部長
26	評議員	小田嶋 鉄 朗	横浜市みどり環境局公園緑地部長
27	評議員	坂 本 今朝幸	横浜市南区スポーツ推進委員連絡協議会会長

1 評議員人事（定款第 11 条）

(1) 令和6年7月5日付辞任

嶋田充郎

(2) 令和6年7月5日付就任

壺阪敏秀、山本朝彦、小田嶋鉄朗

(3) 令和7年3月 31 日付辞任

山本朝彦

2 評議員選定委員会に関する事項（定款第 12 条）

	開 催 日	決議事項
1	7 月 5 日	・ 評議員の選任の件

3 評議員会に関する事項（定款第 16 条、第 17 条、第 20 条）

	開 催 日 等	決議事項
1	6 月 24 日	・ 令和 5 年度事業報告及び決算の承認の件 ・ 理事の選任の件 ・ 評議員候補者の推薦の件 ・ 役員の報酬等の支給基準に関する規程の一部改正の件

2 役員に関する事項【定款第 22 条】

（令和 7 年 3 月 31 日現在 理事 20 名 監事 2 名）

No	役職	氏 名	所 属 等
1	会 長	山 口 宏	横浜野球協会会長・横浜野球連盟会長 中区スポーツ協会会長・㈱共栄社代表取締役社長
2	副会長 兼 専務理事	雨 宮 勝	専務理事
3	副会長	日 下 啓 二	横浜市テニス協会会長
4	副会長	伊 澤 万 樹	旭区スポーツ協会会長
5	副会長	吉 備 カ ヨ	株式会社ジョ ビア代表取締役社長
6	常務理事	小 池 道 子	事務局長 兼 総務経営局長
7	常務理事	藤 野 純	スポーツ施設局長 兼 スポーツ事業局長
8	常務理事	高 橋 寛	スポーツ事業局大規模スポーツイベント担当局長
9	常務理事	井 上 幸 一	公園管理局长
10	常務理事	川 瀬 伸 二	警備統括監
11	理 事	石 井 和 則	一般社団法人横浜サッカー協会会長

12	理 事	中 村 博	横浜ハンドボール協会副会長
13	理 事	平 岡 可奈之	横浜市卓球協会副会長
14	理 事	米 持 眞 吾	一般社団法人横浜市陸上競技協会理事長
15	理 事	柿 崎 政 治	横浜市ソフトボール協会常務理事
16	理 事	小 金 澤 光司	横浜市トライアスロン協会理事長
17	理 事	藤 至 光	横浜市立中学校体育連盟会長
18	理 事	佐 々 木 玲子	慶應義塾大学体育研究所教授
19	理 事	西 山 雄 二	公益財団法人横浜市スポーツ協会スポーツイベントシニアコーディネーター
20	理 事	足 立 哲 郎	横浜市にぎわいスポーツ文化局長
1	監 事	鈴 木 常 夫	横浜市柔道協会理事長
2	監 事	齋 藤 貴 司	ベイ・タックス税理士法人代表社員税理士

1 役員人事（定款第 22 条）

(1)令和6年6月 24 日付就任

小池道子

(2)令和7年3月 31 日付辞任

井上幸一、米持眞吾、藤至光

2 理事会に関する事項（定款第 31 条、32 条、35 条）

	開催日(決議成立日)	決議及び承認事項 等
1	6 月 7 日	・ 令和 5 年度事業報告及び決算の承認の件 ・ 理事候補者の推薦の件 ・ 評議員候補者の推薦の件 ・ 評議員会の日時、場所及び付議する事項の決定の件 ・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行報告
2	7 月 1 日 (決議の省略の方法による)	・ 役付理事（常務理事）の選任の件 ・ 専門委員会委員の選任の件
3	12 月 12 日	・ 評議員選定委員の選任の件 ・ 令和 6 年度横浜スポーツ表彰被表彰者の決定の件 ・ 令和 5 年度における公益目的事業の剰余金の取り扱いの件 ・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告 ・ 令和 6 年度横浜スポーツ普及功労賞被表彰者報告 ・ 令和 6 年度横浜市スポーツ栄誉賞被表彰者報告 ・ 加盟団体新規加入申請団体の審査結果の報告 ・ 第 6 期中期計画の指標数値変更の報告

4	3 月 24 日	・ 令和 7 年度事業計画書及び予算書の承認の件 ・ 理事の利益相反取引の承認の件 ・ 重要な職員の任命の承認の件
---	----------	---

3 職員に関する事項【定款第 42 条】

固有職員	再雇用職員	一般職員	横浜市派遣職員	嘱託職員	合 計
152 名	16 名	6 名	6 名	84 名	264 名

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

4 委員会に関する事項等【定款第 43 条】

1 専門委員会

委員会名	開催日	議題等
総務	11 月 19 日	新規加盟申請団体の審査について、新春横浜スポーツ人の集い実行委員について、賛助会員の状況報告
	3 月 12 日	新規加盟申請団体の審査について
市民スポーツ 競技 (合同開催)	6 月 18 日	令和 6 年度事業報告について
市民スポーツ	11 月 28 日	令和 6 年度横浜スポーツ普及功労賞候補者(案)について
競技	3 月 11 日	令和 7 年度事業計画について

2 連絡協議会

	開催日	議 題
加盟団体代表者会議	7 月 10 日	新任常務理事の紹介・あいさつ、横浜 BUNTAI の説明・内覧
区スポーツ協会 代表者会議	6 月 17 日	企業協賛について、事務局機能について、スポーツ施策について、広報施策について
	9 月 9 日	事務局体制について、区スポーツ協会が取り組む公益的事業について、企業協賛について、各区情報交換
	12 月 2 日	事務局体制について、インクルーシブ推進事業について

5 加盟団体に関する事項【定款第 44 条】

加盟競技団体	加盟学校団体	加盟地域団体	加盟 スポーツ団体	合 計
52 団体	3 団体	18 団体	1 団体	74 団体

Ⅲ 資料

1 中期計画達成状況

■第6期中期計画（令和6年度実績）

目標		施策	成果指標	年間		
				中期指標	結果	達成率
1 事業 推 進	(1)公益的事業推進のための収益力強化	①職員の運動、健康指導スキルを活用した収益の拡大	健康・運動指導による収入額	60,000千円	53,690千円	89%
		②団体、企業等との共創による収益性を意識した取り組みの推進	①共創団体数（実団体数）	60団体	86団体	143%
				(のべ80団体)	(のべ156団体)	—
			②収入額	168,000千円	324,514千円	193%
		③コロナ禍以前（2018年度）に実現していた施設運営収入額(39億円)の達成	施設収入額	3,500,000千円	3,907,684千円	112%
		④施設運営以外の事業における参加料・協賛金・受託料の拡大	事業実施における補助金以外の収入額	70,650千円	97,519千円	138%
	⑤ドメインを踏まえた、PFI・指定管理の方針検討・決定、獲得	PFIや指定管理施設の獲得方針決定・獲得100%	PJチーム立ち上げ方針検討・決定	PJチームにて、指定管理の方針決定	—	
	(2)スポーツに親しむ機会拡充によるスポーツの日常化	①教室やイベント、個人利用等の事業参加者数の拡大	事業参加者数	1,210,000人	1,454,570人	120%
		②参加しやすい会場（横浜市内）でのスポーツをする機会の拡大 ※当協会管理運営施設除く	スポーツ関連事業実施会場数	326会場	240会場	74%
		③ターゲットを明確にしたインクルーシブのスポーツイベントや教室事業の拡大	①事業数（実事業数）	49事業	62事業	127%
			②参加者数	2,500人	11,742人	470%
		④スポーツをささえるスポーツボランティアの育成・活躍の機会の充実	①事業数	176事業	179事業	102%
			②活躍人数	9,300人	11,282人	121%
		⑤加盟団体との連携による地域におけるスポーツをする機会の拡大	協働による事業を実施した加盟団体数	27団体	36団体	133%
			—	(91事業)	—	
	⑥デジタル技術等を活用した新たな事業や事業運営の効率化の推進	スポーツ×テクノロジーを活用した取り組みの実施	事業の企画検討	28件	—	
	(3)次世代を育む環境の構築	①親子、子育て世代がスポーツに親しみやすい機会を提供し、子育て世代の親と子が参加できる事業の充実	①事業数	1,030事業	1,262事業	123%
			②参加者数	27,700人	37,434人	135%
		②次世代へスポーツをつむぐため、子どもがスポーツに親しみやすい機会の拡充	①事業数	6,274事業	6,185事業	99%
			②参加者数	141,200人	157,273人	111%
		③協会100周年及びその後を見据えたプロジェクト「NEXT100（仮称）」の実施	100周年企画及びその先の未来へ	—	PJチームにて100周年の取組検討を開始	—
2 人 材 育 成 ・ モ チ ベ ー シ ョ ン 向 上	(1)人材・組織力の最大化	①職員の運動、健康指導スキル強化のための資格保有者の拡大	健康運動指導士やパーソナルトレーニング指導につながる専門資格取得者数	5人	6人	120%
		②職員自らが資格取得等に自発的にチャレンジし、事業を創り出す仕組みの導入	制度化	仕組みづくり	制度(案)を策定	—
		③職員のモチベーションの向上につながる新人事評価制度の導入	新人事評価制度の構築	新人事評価制度の検討・設計	新人事評価制度の設計完了	—
		④部署間連携による事業拡大及び組織力の最大化	複数部署と連携した事業数	29事業	78事業	269%
3 財 務	(1)財政基盤の強化	①収入拡大により、短期的な財務状況の健全化の推進	流動比率	197%	162%	—
		②長期的な財務状況の健全化による新たな取り組みにチャレンジできる財政基盤の確立	自己資本比率	63.1%	62.0%	—
		③当協会100周年及びその後に、公益目的事業を安定的、継続的に実施するための収益の確保	売上高経常利益率	2.0%	3.7%	—

2 賛助会員

※令和 7 年 3 月 31 日現在・50 音順・敬称略

※非公開希望者は掲載していません。

特別企業・団体(15)					
(有)旭屋	エクスプロージョン合同会社	鹿島建物総合管理(株)			
(株)共栄社	(株)キョーエーメック	(株)トーリツ			
東日本電信電話(株)	藤木企業(株)	藤木陸運(株)			
(株)プロアバンセ	(株)横浜アーチスト	横浜エレベータ(株)			
(一社)横浜サッカー協会	(株)横浜スタジアム	(株)ロイヤルホール			
企業・団体(43)					
(株)安藤スポーツ	(株)エイト	神奈川県民共済生活協同組合			
(株)環境造園	(有)関東化染工業所	(株)栗田園			
公益情報システム(株)	湘南建設(株)	(株)スリーオークスコミュニティ			
太洋歯科クリニック	(株)TACT・JAPAN	東京体育用品(株)			
東横イン横浜新子安駅前	(株)ハウジングカネコ	(有)平沼スポーツ店			
ペイ・タックス税理士法人	松宮整形外科	丸五運輸(株)			
(株)山野井	よこはまウオーキング協会	横浜市合気道連盟			
横浜市アマチュアボクシング協会	横浜市インディアカ協会	横浜市弓道協会			
横浜市グラウンド・ゴルフ協会	横浜市剣道連盟	横浜市柔道協会			
横浜市学童野球連盟	横浜市少林寺拳法連盟	横浜市総合型地域SC連絡協議会			
横浜市卓球協会	横浜市テニス協会	横浜市なぎなた連盟			
NPO法人横浜市馬術協会	横浜市ボウリング協会	(株)横浜シミズ			
(一社)横浜市ラビーフットボール協会	(一社)横浜市陸上競技協会	横浜市レディースソフトボール連盟			
(一社)横浜水泳協会	横浜バスケットボール協会	横浜野球協会			
横浜野球連盟					
特別個人(17)					
阿部 哲治	奥村 彩香	河原 智	菊池 侃二	日下 啓二	栗田 るみ
五反田 哲哉	齊藤 禮二	高井 祿郎	高柳 和弘	田邊 賢一	中村隆之
南部 信治	馬場 正徳	濱 陽太郎	平岡 可奈之	山口 宏	
個人(57)					
相川 隆	伊澤 万樹	石井 和則	伊藤 隆介	岩井 茂	岩倉 憲男
宇田川 ユキ子	梅田 巖	遠藤 和宏	大澤 眞治郎	大辻 明	小野 謙治
加藤 宏子	加藤 弘	川戸 政角	河野 多恵子	及能 茂道	黒崎 二男
小泉 隆志	小坂 恵美子	小坂 典次	小柴 邦幸	齋藤 裕昭	三枝 勝巳
佐藤 富美男	下田 秀美	庄司 勉	菅谷 久夫	杉浦 紀子	杉山 郡啓
鈴木 信太郎	鈴木 常夫	鈴木 浩	清野 宏之	妹尾 愛子	高野 啓子
滝川 成信	武居 和子	田中 義孝	中山 次	夏田 智子	菜花 好和
廣瀬 正春	淵脇 建夫	古川 真澄	堀内 芳子	牧 義一	松浦 隆
丸山 隆	道下 修三	三ツ木 武	矢島 孝幸	矢部 寛和	弓場 常正
横山 千代美	吉井 由里子	渡辺 良雄			

公益財団法人横浜市スポーツ協会

〒231-0015

横浜市中区尾上町六丁目 81 番地

ニッセイ横浜尾上町ビル内

TEL 045-640-0011(代表)

FAX 045-640-0021

URL <https://www3.yspc.or.jp/>